

まとめ

海が生活から遠ざかってしまった人が多くなり、海の生きものへの関心が減ってきたように思います。このような簡単な調査に参加することで、海の楽しさ、不思議さ、生き物の多様さを感じ、知っていただく機会になったと思います。今回の調査でもそうですが、一人一人が調べることができる範囲は狭く、またわずかな情報ですが、記録が集まった結果、めず

しい生きものや新しい情報が見つかりました。また楽しみながら大勢の方が参加したことで環境の変化の監視にもなります。これからも海に出かけ、海の環境の変化を見つけていきましょう。

向井 宏

海の生き物を守る会代表、北海道大学名誉教授、自然しらべ学術協力者

参加者からの感想



海は泳ぎに行ったり、遊びに行く場所でしたが、今回初めて参加し、違う視点で海を歩く事が出来ました。生き物だったり、植物があるがままの状態にいることに子供も私も感動しました。また、このようなチャレンジができる機会があれば、ぜひ参加したいと思います。 岡田誠二さん(岐阜県)



最初は何もないと思っていましたが、探すといろいろ見つけて面白かったです。拾った貝殻は持ち帰り鑑賞で調べてみました。 藤田千鶴さん(岐阜県)

遊びとは違う目的で海へ行くことは、初めてだったけれど、いつも見えていないところを意識して見れたのでよかった。 栗本玲子・悠吾さん(和歌山県)

ハマニガナらしい植物を見つけられてすごうれしかったです。何かが開けた穴もたくさんあり、掘ってみただけ何も出てきませんでした。いったい何があけたのか気になっています。子どもと一緒に身近な発見ができ楽しかったです。

小野木幸恵・颯さん(石川県)

写真コンテスト入賞作品発表



グランプリ賞 林重雄さんの作品

素敵な写真をご応募いただき、ありがとうございました。選考の結果、左記の写真が選ばれました。

各作品とコメントなどは日本自然保護協会の自然しらべ2015のサイトに掲載しています。ご覧ください。

- | | |
|------------|-------------|
| グランプリ賞 | 林重雄さん(愛知県) |
| ナイスショット賞 | 橋本達也さん(愛知県) |
| 海辺エコトーン賞 | 重松尚紀さん(福岡県) |
| 守りたい海辺の風景賞 | 日野沙織さん(徳島県) |
| 楽しくしらべました賞 | 西尾晶子さん(福岡県) |

NACS-J自然しらべとは

子どもから大人まで、身近な自然に出かけて全国同じテーマでしらべる、市民参加型の環境教育プログラムです。「みんなで、みれば、みえてくる」を合い言葉に日本自然保護協会が1995年から毎年続けている身近な自然の状況を知る「自然の定期健康診断」です。集まった情報を学術協力者の方とまとめ、日本の自然を守る活動に活用します。多くの方に自然を観察してもらうきっかけとなり、自然への愛着と関心を高め、日本の生物多様性を守ることに繋がってほしいと考えています。参加者数はのべ約73,800人になりました。

※このレポートで報告しきれなかった情報は、自然しらべ特設Webサイトに掲載しています。ご覧ください。 http://www.nacsj.or.jp/project/ss_top.html

あなたも自然を守る仲間になりませんか 会員募集中!

〒104-0033 東京都中央区新川1-16-10 ミトヨビル2F TEL:03-3553-4103 FAX:03-3553-0139 shirabe2015@nacsj.or.jp <http://www.nacsj.or.jp>



自然のちからで、明日をひらく。

日本自然保護協会

THE NATURE CONSERVATION SOCIETY OF JAPAN

会報「自然保護」No.549号(2016年1月1日発行)付録



自然しらべ2015

砂浜ビンゴ

結果レポート

日本は海洋国でとても長い海岸線を持つ国です。しかし海や海辺の自然の調査は、陸上に比べて遅れています。自然しらべでは、ビンゴをしながら「海岸エコトーン」に注目することで「海辺の自然の豊かさや多様性を知り、みんなで海を見つめ、気づく機会にしたい」と考え、砂浜の自然をしらべました。自然しらべ2015砂浜ビンゴ!には、1,068人が参加して全国177カ所の砂浜から情報が寄せられました。そのようすをお伝えします。

主催	公益財団法人日本自然保護協会	共催	読売新聞東京本社	協賛	JR西日本	Sanikleen	COLORATA
誌面協賛	日経サイエンス	一個人	ecomom	特設の達人	旅の手帖		
協力	mont-bell	Nikon	GARVY	このは	Gakken	FUJITSU	patagonia
	E-ne!~good for you~ (FMヨコハマ)	NEC presents THE FLINTSTONE (bayfm)	タッキー地球レポート (みのおエフエム)	後援	環境省	文部科学省	

「自然しらべ2015」は、東京ガス環境おうえん基金の助成を受けて実施しています。

自然しらべ2015砂浜ビンゴ! 全国各地の砂浜でこんな生きものがみられました!

海岸で本当にこんな生きものたちに会えるのだろうか?と、ビンゴシートを片手に砂浜に出かけた皆さん、ご参加ありがとうございました。ワクワクしながら対象の生きものや環境を次々に見つけ、送ってくださった写真がたくさん集まりました。ここでは、皆さんの情報の中から、2015年の砂浜のようすをご紹介します。



穴それぞれ

125枚の「穴」の記録写真は、さまざまなタイプのものがありました。スナガニやシオマネキのなかまが頭をのぞかせる10円玉サイズの穴から、針の先のように小さな虫があけた穴、波によってつくられる穴もありました。



ビックリ! 穴のあいた石

海辺で見つけた「穴」があいた石。カメガイなどの貝が穴をあけて住んでいた跡です。



チョウを海辺で見つけました!

今回は3カ所で報告がありました。チョウは、体温調整や栄養成分の補給のため、海辺に給水にやってくると言われています。



砂浜を分断する護岸・堤防

今回の自然しらべでは、護岸や堤防が延々と続く浜の写真も数多く寄せられました。2007年に当会が発表した「海岸植物群落調査」では、護岸の様子もあわせて調査された結果、1308ヶ所の調査地の半数以上に護岸・堤防が築かれており、人工物のない浜は12%だけでした。今回の情報でも、ほとんどの砂浜に護岸・堤防がみられ、人工物がエコトーンを断ち切っているようすがわかりました。



オカヤドカリ類

温暖化により分布の北限が変化しているといわれた「オカヤドカリ類」ですが、今回の調査では、報告が沖縄県と鹿児島県に集中して、その傾向がつかめるような情報はありませんでした。



砂浜はお花畑! 海岸植物

寄せられた写真の中には、美しい花を咲かせている海岸植物もありました。海岸植物は、海と陸の間に生育する植物で海辺に出

かけて観察しなければ見ることはできません。調査期間の7~8月の間には、色とりどりの花を咲かせていました。



このページの撮影者の皆さん: 廣寄由利恵さん(大阪府)、山崎恵さん(茨城県)、伝統文化と環境福祉の専門学校(新潟県)、若林裕子さん(千葉県)、米山ゆいさん(大分県)、石田あかりさん(愛知県)、高松明日香さん(沖縄県)、大垣内宏さん(兵庫県)、林重雄さん(愛知県)、森由美さん(神奈川県)、武良里恵子さん(鳥取県)、五十嵐輝夫さん(宮城県)、田中清子さん(熊本県)

砂浜ビンゴ! 結果ランキング!

1位「砂浜の景色」(289枚)、2位「堤防チェック」(186枚)、3位穴(125枚)、4位「びっくり」(104枚)でした。

たくさんの貝類の情報が集まりました。

ナミノコガイ、フジノハナガイの記録と共に、たくさんの貝の情報が寄せられました。福岡県糸島市から県の絶滅危惧Ⅱ類のチョウセンハマグリ(野北介として有名)や広島県尾道市からヒシガイ(環境省絶滅危惧Ⅱ類)の貝がら、鹿児島県の錦江湾周辺からは、現在は湾内には生息していないとされるモクハチアオイの化石と思われる貝がらもつかりました。



ナミノコガイ(神奈川県鎌倉市)



● ナミノコガイ
● フジノハナガイ
○ 調査地点

しらべた植物2種の状況

● ツルナ

葉っぱに厚みがあり、夏に小さな黄色い花をさかせる植物です。古くから食用に用いられることもあり。主に太平洋岸の熱帯から温帯にかけて分布しています。今回の調査では北は宮城県石巻市から南は沖縄県座間味村まで、全国43カ所から報告がありました。太平洋岸で多くみられました。



ツルナ(宮城県七ヶ浜町)



● ツルナ
○ 調査地点

● ハマニガナ

地中に茎(くき)を広げてくらす植物です。現在10県で絶滅危惧種などにリストアップされ減少が心配されています。全国各地の13カ所から報告がありました。



ハマニガナ(鳥取県境港市)



● ハマニガナ
○ 調査地点